

「一文惜しみ」という言葉があります。いかにも「少額の金銭に固執している」ということが分かる言葉です。実は、これは諺の前半の部分であり、後半は「百知らず」とも「百失い」ともいいます。意味は「目先のわずかな金銭を惜しんだために、後で大きな損をする。目先の小さな損得にこだわらず、将来の利益のことも考えて金銭は使わなければいけないという戒め。」【故事ことわざ辞典〔旺文社発行〕】ということです。

これと同じような諺は、外国にもあるようです。例えばイギリスでは「Penny wise and pound foolish」というのがあります。

洋の東西を問わず「出すのは舌でもイヤ！」という人間の気持ちをよく現しています。

これを、安全衛生の観点から見てみましょう。わずかな金額の安全装置の導入をためらったがために大きな災害を引き起こした例、少額の出費を惜しんで重大な健康障害を引き起こした例は、数限りなくあります。列車の自動停止装置設置をためらったがための脱線事故、換気装置の設置を惜しんだための健康障害等々です。

「リスクアセスメント」で「リスクの優先度が高い」と見積られた場合、「十分な経営資源を投入する」という低減措置をとる必要がありますが、この「経営資源」とは「資金とマンパワー」です。

「一文を惜しんであとで臍を噛む」ことのないように、必要な場合はそれに見合った資金を投入したいものです。

(以上)

◀ 日本労働安全衛生コンサルタント会東京支部 / 東京技能者協会 ▶

一文惜しみの 百失い



経営資源の投入が必要！